

令和 7 年度 自己評価シート【不動児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（1） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
■a)、□b)、□c)	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒区の基本構想にある「子どもに身近な安心・安全に過ごすことのできる、学校、家庭に次ぐ第三の居場所として運営を行う」という部分に則り、「地域の居場所となる児童館を目指す」と自児童館のビジョンを掲げ、日々のミーティングや施設内の研修等を行いながら職員への意識統一を行っている。 ・配属された職員には「目黒区児童館運営指針」を配布し理解を図るようにしている。
1－1－（2） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
・施設内研修にて、理念や指針に沿った研修を行い、理念の浸透を図っている。	・理念に則ってビジョンを策定しているが、まだまだ日常の関わりや企画一つに於いての目的が一致していない事もあるので、その都度ミーティングなどで軌道修正していく。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（1） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理

念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	<ul style="list-style-type: none"> ・目黒区児童館運営指針に基づき、事業計画を策定しています。 ・基本理念に基づき、児童館でドッジボール大会を企画したい、という子どもの声を聴いて、子ども中心にドッジボール大会を企画、運営してもらうなど、異年齢で楽しめる活動を取り入れるなどを行った。
2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の保育園がある事で、専任のリトミックやアートの先生、看護師による応急救護等、乳幼児クラブ活動において様々な体験ができるように、連携を図る事ができている。 ・月曜日閉室している図工室環境を生かし、中高生の居場所作りとして活用する活動(ROUND・F)を数回実施している。 ・小学生に於いては異年齢の活動を重視すると同時に、低学年、高学年が気兼ねなく遊べる時間も設け、メリハリをつける事でさらに異年齢でも楽しめる環境を作っている。
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) - (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	<p>図書アンケート、おもちゃ会議、おまつりスタッフ等子どもたちの目線で必要と感じているものを積極的に取り入れる事で、児童館が自分たちの居場所だと感じてもらえるように働きかけている。</p> <p>また、子どもからの「やってみたい」の声も取り入れ、今年度は6年生が主体のドッジボール大会を実施出来た。</p> <p>日々の関わりの中で子どもの言動に注意し、またその背景を探るコミュニケーションを取る事で、子どもの困りごとや悩みを拾い、専門機関に繋げられるかを日々ミーティングで報告しあっている。</p>
2-1-(4)	
児童館の理念・目的及び施設特性について	

良いと思う点	改善が必要だと思う点
地域の居場所、という部分において、現在は一番利用が多い不動小に限らず、他の小学校(月光原・油面)の児童の利用も多い。児童館の認知、周知、という部分が浸透しつつある。 また、住区住民会議との連携も継続して行い、住区祭りや会議等に参加すると声をかけられる場面もあり、児童館の存在のPRも出来ている。	乳幼児クラブ活動において、地域特性も踏まえ1歳児以上の利用人数が非常に少ない。 お便りによる周知はできているが、様々な機関へ繋げる為にも更なる周知の方法を検討する必要がある。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1)	
子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。	
(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	日々のミーティングや、施設内研修、外部の研修を通じて、児童一人ひとりの特性を理解し深め、そこに合わせた声掛けができるように職員の意識向上を図っている。
2-2-(2)	
子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】	
(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。	
(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	通常のプレイルーム(動的な遊びのスペース)での遊びや、JUMP-JAM、みんなであそぼうタイムでは、子ども達に遊びたい内容を聞き、子ども達の中で決める、という形を取っている。 また、同じ遊びに偏らないように、職員が遊びを提供し、子どもの遊びの選択肢を増やす事も行っている。
2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	

【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	ペガサスキッズ祭りでは、運営スタッフとして子どもたちが主体的に関わるよう子どもの意見を取り入れたり、スタッフの児童の特徴を理解し、配慮しながら運営を行っている。 それにより、6年生が1年生に丁寧に教えてリードする姿が見られ、1年生にとって良いモデルになる場面も見られている。
2－2－（4） 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
子ども同士の遊びに於いて、高学年が低学年へ優しくボールを投げたり、一緒に遊ぶ姿が見られる。	子どもが自発的に取り組めるように、子どもの意見を取り入れた遊びと、児童館で新しい遊具や体験を提供する。学年に応じて体力的な面で勝ち負けが付きやすい遊びだけではなく、異年齢で且つ低学年でも活躍できる遊びを取り入れて引き出しを増やし、更なる活動の幅を広げる事が必要だと感じる。

2－3 児童館の安全管理

2－3－（1） 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	施設内の消毒は日々行い、仕組化できている。利用者からも「清潔感があって利用しやすい」という声をいただいている。 避難訓練を毎月様々な想定(火災、地震、またその発生時間を変えている)で実施し、都度職員で振り返り、様々な想定に対応できるようにしている。 保育園とも協力し、利用者の避難、保育園の利用児の避難に対しての検討、共有を行っている。
2－3－（2）	

利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	<p>所管課からは、不審者情報や、台風などの自然災害が発生した際の被害の確認点検、地域の安全に関する情報等がタイムリーにメール配信されている。また、法人で全施設の事故、怪我、ヒヤリハットの事例を共有できるツールがあり、それを職員全体で日々確認して、全体に共有している。</p> <p>法人内の会議でも、他施設の事例は共有するようにしている。</p> <p>施設内でもヒヤリハットレポートを作成し、日々の施設内の気になる箇所に職員全体で気付き、安全に配慮できるように伝えている。</p>